

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に「住み慣れた地域」、運営方針に「地域に溶け込み、より添う」を盛り込んでいる。家訓「あるがままに 楽しく ゆったりと」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で「住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせる老後」を実践している。常に親しみを持って さん付け呼称を行い、笑顔の絶えない日常を目標として取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には年に1回の家族面談、年に2回の家族会を通して、地域の方には地域運営推進会議の場において「さわやかテラス」の理念について理解を頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物へ行くときに挨拶を行い、近所の方から声を掛けてくださる時もある。また、「さわやかテラス」を一般の方にも開放しており、時々近所の子どもたちが遊びに来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営推進会議にて地域の行事などの情報を頂き、地区の敬老会や運動会、コンサートや公民館でのサロンなど積極的に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項契約内容を書面で示しながら本人、家族に十分説明を行っている。また入居後も家族から質問があれば、スタッフはその都度説明を行うようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフは日頃から入居者と密な関係を保ち、意見など言いやすい環境をつくっている。日常生活の中で、訴えや意見が聞かれれば、紙面で他スタッフに知らせ、スタッフで話し合いを持って解決するように心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ほとんどの家族が月に一度は来訪されている。その際、個別記録、ケアプラン、出納帳に目を通して頂き、日常の様子を報告している。また、毎月「さわやかテラス」の新聞を作成、郵送しスタッフの紹介や異動のお知らせも行っている。金銭管理も含め、家族への報告は密に行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より家族とケアについて話し合いを十分に行っている。また、家族から意見や要望があった段階でケアや運営に反映できるようにしている。入居時や家族会にて意見相談窓口が市町村、県にあることもお知らせしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回カンファレンスを行い、責任者、スタッフで話し合いをし、意見交換の場を設けている。代表は常に入居者と家族、スタッフに接触を持っている。代表もスタッフも「より良いケア」を目指しているので互いの良き意見提案は実態に則し、反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態に合わせ、責任者がスタッフの勤務体制や勤務時間など、臨機応変な対応を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>責任者はスタッフのメンタルケアに常日傾心がけている。人事異動は馴染みの関係が継続できるように、必要最小限に努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集、採用にあたっては、性別、年齢を制限しておらず、実際にスタッフの年齢層は20代～60代まで幅広い。「グループホームのケアに従事したい」という意欲を重視しており、「さわやかテラス」で働くことがそのスタッフの自己実現と一致している人を採用している。スタッフは、地域活動、自己学習を自由に行っており、資格取得を積極的に支援している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>研修の年間計画にも認知症ケアの専門性、グループホームにおけるスタッフの資質を盛り込み、常にケアについて学習している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は法人内5事業所合同で、年間計画を立て、計画的に行っている。経験に応じた研修や、リーダークラスの研修も行っており、スタッフは段階を踏んで知識、技術を深めていけるようになってきている。外部研修の機会も確保している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修などに積極的に参加し、他同業者との意見交換を行ったり、相互訪問なども行い、サービスの向上に努めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>代表は、責任者やスタッフと休憩時間など、機会があれば各スタッフと話す機会を設けている。責任者もまた、スタッフとの対話を重視している。歓送迎会や年に1度の職員旅行など行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>賞賛すべき職員の努力や実績はカンファレンスの場所で職員全員に知らしめている。資質が伴えばリーダーや責任者補佐に抜擢する人事制度があり、職員が向上心を持って勤務できる職場である。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居にあたっては、本人の住まいに伺い本人と直接話をして、本人の思いを聞くことを重視している。そしてまた、本人の歴史を知ること本人にとって最良のケアの基であり、信頼関係を築くスタートとしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来訪時に聴いたり、責任者の連絡先(携帯番号)をお伝えして、いつでも話せるようにしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「さわやかテラス」の見学は自由に来て頂いている。相談を受けた時に、本人が今必要としているサービスは何かを見極め、他サービスの紹介も行っている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に何度もお会いし、入居者、家族、スタッフの互いの理解を深め、馴染んで頂いてから入居していただくようにしている。入居前の環境、生活のリズムを把握し、入居直後は出来る限り、前の環境に近づけるよう無理なく「さわやかテラス」の生活に馴染んでいただくようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>裁縫、調理といった家事については入居者の方が経験豊かであることから、味付けのコツや昔ながらの風習など入居者に教えるを頂いている。また、できないことを強いるより、得意なことを教えて頂きながら、一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時、声を掛けたり、談話したりしながらコミュニケーションをとり、入居者のことを共に考えるようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来訪された時は、自宅にいるような感じで過ごして頂けるような環境を整えている。本人、家族があつてのケアであることを念頭に、スタッフは本人と家族のより良い関係保持への支援をおこなっている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知り合いの民謡の先生が月2回ボランティアとして来て頂いている。また、入居前からの行きつけの喫茶店へ時々行くことがある。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「さわやかテラス」スタッフの心得の一つに「さりげない気配り・目配り・心配り」を掲げ実践している。孤立や入居者同士の仲たがいの場合も職員がさりげなくその場の雰囲気や和ませ仲を取り持っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も家族と「さわやかテラス」との関係を継続していけるようにつながりを保っている。今現在、亡くなった入居者の家族の方が併設の小規模多機能型居宅介護施設「さわやか憩いの家」にボランティアとして来てくださっている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何事も一緒にする。」「許可、同意を得る。」「本人、家族の希望を重視する。」とスタッフの心得に明記しており、常に入居者の希望を把握し思いに沿った暮らしの実現に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にどのような環境であったかなど、生活歴を本人や家族より伺い、十分に把握し、趣味など入居してから生活していく中で活かせるように支援している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「さわやかテラス」では、毎日一人ひとりの暮らしを把握する為に、その時々での過ごし方・心身状態を記録し入居者のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族来訪時にケアプラン、個別記録を見ていただき意見をお聞きしている。スタッフを3チームわけ、6名の入居者を担当し、毎月チームで話し合いを行った上で全体のカンファレンスにてさらに意見交換を行っている。プランの内容は入居者、家族の思いを盛り込んでおり、スタッフの気づきも入っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月チームで話し合いをした上でカンファレンスし、全スタッフで話し合いをする流れになっており、話し合いの結果を踏まえ計画の書き直しも毎月行っている。また、入居者の状態に合わせて家族と話し合い、その状況にあわせケアプランを作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日を追って記録としている。ケアプランなどは後で見直ししやすいように青ペンで記入するなど工夫している。記録については毎月振り返り、ケアの見直しなど検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々での要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院を含めた外出支援を入居者の心身状況や生活のリズム、家族の都合に合わせて臨機応変に行っている。習い事の希望あり、スタッフの付き添いにてダンス教室も行っている。。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回、消防署の協力も得ながら避難訓練を行っている。併設の小規模多機能型「さわやか憩いの家」とも連携し、地域への協力依頼も行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の家族の希望があれば、責任者が他のサービスの紹介など行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回、地域運営推進会議に参加して頂き、情報の交換を行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、入院の医療機関は、入居者、家族の希望に沿っている。かかりつけ医の往診は月2回あり、急な特変があっても24時間連絡が取れるような体制をとっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認知症に関して理解が深く、入居者の状況報告を行って密に連絡するようにしている。月2回の往診時に入居者より相談あれば家族と連絡を取り話し合う。その結果、他の専門医を紹介して頂き、受診するように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の指示のもと、24時間訪問看護ステーションとの医療連携をとっており、支援できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した場合は、毎日スタッフがお見舞いに行くようにしており、入居者の希望や、話を傾聴している。また、その日の入居者の様子や状態を病院関係者から伺い、家族へも行っている。医師と「さわやかテラス」、家族との連絡も密に行い、治療方針を相談し、今後のケアを検討している。「さわやかテラス」のかかりつけ医とも密に連絡をとるようにしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「さわやかテラス」では本人、家族の希望に応じてみとりを行っている。重度化や終末期について、家族やかかりつけ医、代表、責任者とで繰り返し話し合うようにしている。本人の望んでいる終末期のあり方を日々の生活の中で把握し、それに近づけるように、取り組んでいる。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の意思を十分に理解し、できる限りの対応を家族やかかりつけ医、訪問看護ステーションとスタッフが連携を取り実践している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居、退去に拘らず環境が変わるということは、本人にとって大変不安なことである。その事を十分認識し、家族と共に本人に理解して頂くよう話をしたり、入居以前からの関わりで馴染みの関係を築いたり、ダメージを極力感じないような対応に努めている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを大切にし、訪問時や外出時など常に許可・同意を得ている。言葉遣いにも敏感に反応されることも念頭におき対応している。守秘義務においては、職員に教育周知徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者の言動、行動に目を配り、本当に言おうとしていることに視線を落とし、耳を傾けるようにしている。また、専門用語や新しい言葉は使わず、分かりやすい言葉で話すようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気分やリズム、ペースを大切にしている。望まれる方には散歩、買い物も自由にして頂いており、望まれる過ごし方を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の個性にあわせ、ブローチや髪飾りをつけたりすることを支援し、パーマを掛けたいと希望あれば、近所の美容室に予約し、スタッフが付き添っている。個々で馴染みの美容室に家族と一緒にいられる事もある。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しめるよう、皆で一緒に作っていくことを大切にしている。スタッフも一緒に食事を取り、食欲や嚥下の見守りも行いながら楽しい食事を心がけている。食卓には花を飾り、入居者に食べたい物を伺ったり、旬の物を取り入れたり工夫している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む、好む物について、医師からの制限がない限りは、日常的に楽しめるようにしている。制限がある場合も絶対ダメとは言わず、入居者、家族と話し合い、できるだけ楽しんで頂き、ストレスをためないようにしている。夜ワインを飲まれる方もいる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、入居者の気持ちを尊重し、さりげない言葉かけをするなど支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴日、入浴時間は決めておらず、入居者が好まれる時間に入浴して頂いている。入浴実施は記録に残し、希望に合わせながらも清潔の保持に気を配っている。入浴を嫌がられる方についてはスタッフで話し合いをして言葉かけを統一し、入居者が気分よく入って頂けるようにしている。	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、休みたい時間に休まれている。「眠れない」と訴えがある方に対しては温かい飲み物を提供するなど工夫している。「眠れない」との訴えが続く場合は、日中入浴や足浴して頂くなど、夜安眠できるように支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、生け花など、入居者の力を発揮して頂けそうな場面では「教えてください」と言葉かけし、助言を頂いている。また、入居前からの趣味の継続にも努めており、ダンス教室に通っている方もいる。月1回外出に行ったり、その日の気分や天候に合わせて、ドライブなどに行ったりと楽しまれている。	
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じてお金を所持されている。お一人で管理できない入居者については預かり金として「さわやかテラス」で管理し、必要に応じて預かり金よりいつでも使えるようにしている。また、銀行や郵便局に行ってお金をおろす方もおられ、都度スタッフが付き添っている。個々でお金の所持の方法が違うのでスタッフが把握し、支援している。	
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は玄関、勝手口など開放し、自由に外へ出られる環境をつくっている。家族に理解を得た上で、行動の制限は行わず、近くのスーパーへの買い物や散歩は一人でしている方もいる。ほぼ毎日散歩へ行く方もおられるが、止めることはせずスタッフは一緒に出たり、後方より見守りをするなど入居者の気持ちにあわせより添っている。	
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回計画を立て、季節の行事の他、天候やその日の気分に合わせ外食やドライブに行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけてください」と言われた時は、自由にかけて頂いている。本人ができない場合はスタッフがかけるなど支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人など、いつでも気軽に来て頂けるようにしている。来訪の際は、居室やリビングで談話されたり思い思いに過ごされている。家族によっては合わせたくない人もいる為、事前に伺っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはいつも意識している。言葉が荒くなると命令口調になり、言葉による抑制につながることもいつも念頭において接している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りするが、日中は正面玄関、勝手口、各階段につづく出入口ともに開放している。鍵をかけないこと、行動を制限しないことについては入居にあたって家族に説明し理解頂いている。スタッフがわからないまま入居者が外出されたこともあるが、日頃より近所の方の協力依頼や、市の情報ネットを活用するなど、鍵をかけないケアを継続して行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間ともに、ご本人のプライバシーを配慮しつつ、一人ひとりの見守りを行なっている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の使用については、入居者の状態に合わせ、見守り、一部介助など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起こりかけた時や事故の際には、ヒヤリハットの記入を徹底しており事故経緯等を見直し、再発防止に努めている。特変、急変に関しては社内外での研修に参加しカンファレンスで情報を共有し、学ぶ機会を作っている。災害に関しては入居者の方を含めての研修を行っている。</p>	
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>事故発生時、急変時の為の対応マニュアルを置いている。消防署の救急法受講や応急手当や初期の対応の訓練を積んでいる。</p>	
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署の協力も得ながら避難訓練を行っている。併設の小規模多機能型「さわやか憩いの家」とも連携し、地域への協力依頼も行っている。</p>	
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>入居者お一人での散歩、近所への買い物も含め、入居者本意の個別ケアに努め、日頃より家族とケアについて話し合いを十分に行っている。また、入居前や家族面談の際にも十分話し合っている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタル測定を行い、体調の変化や異変の早期発見に努めている。また、朝や出勤時に申し送りを行い、情報を共有している。緊急を有する異変の場合は責任者へ連絡し、かかりつけ医の指示を仰いでいる。</p>	
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方日や、毎日の薬セットする際は、薬の内容を確認している。また、薬の変更、追加処方がある場合は連絡ノートに記入し、スタッフ全員が把握できるようにし、症状の変化などを気にかけている。服薬の際はきちんと飲み込むまで見守りを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食べ物、飲み物の工夫をしたり、体を動かす工夫をしている。1日2回水分摂取と便秘解消の為、寒天を食べて頂いている。便秘の有無がわかるように必要な入居者に対しては日誌に記入するようにしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は一人ひとり口腔状態や力に応じて支援している月2回、訪問歯科に来て頂き口腔衛生や口腔ケアのアドバイスをして頂いている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は夜勤者が作成している。法人内に栄養士資格を有するスタッフがいるため、定期的に献立提供した食事の記録をチェックしてもらい、助言を得ている。食事の制限が必要な疾病を持たれている入居者については、かかりつけ医の指導を受けながら個別に対応している。水分補給にも気にかけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は必ず手洗いうがいをするようにしている。出入り口にはアルコールを置き、外からウイルスを持ち込まないように工夫している。インフルエンザは入居者、スタッフ共に予防接種を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のために台所にはアルコールを置き、調理前後にはアルコール消毒するようにしている。シンクは一日1回クレンザーで磨き、調理器具や布巾は夜、キッチンハイターで消毒している。食材については毎日買い物へ行き、新鮮な物を提供している。日持ちする調味料などは購入した日にちを書き、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチを置いたり、花を植えたりし、誰でもゆっくりとできるように工夫している。玄関に日常の写真、花など飾って楽しめるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地よく過ごして頂くためにスタッフはゆっくり行動、走ったり慌しくしないように心がけている。採光や風通しも良く、季節や行事に合わせ、飾りつけをかえたり食卓に花を生けたり季節感を出している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりに居室があり、独りで過ごしたい時は居室で自由にされている。また、食事のとき以外はソファーやテーブル席に座って頂けるようにしている。日中は鍵を閉めず、自由に外に出られるように開放し、スタッフは見守りを行っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「さわやかテラス」の備え付けはクローゼットのみで入居に関して馴染みの物をお持ちして頂くようにしている。居室に入る限りは特に制限はしておらず、鏡台や仏壇、タンス、ソファーなど、持ち込まれている。家具の配置も入居者の希望や生活のパターンに合わせている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際、必ず換気している。「暑い」か「寒い」か入居者に伺い、温度の調節はこまめに行っている。気になる臭いについては消臭剤を置いたり、臭いの元になるものは常に洗い、換気をしたり心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人に合わせて家具に配置を決め、手すりにもその方にあった所に設置するなど工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の行動はできるだけ見守り、つまづいている部分にさりげなく気配りしている。できないことを強いるより得意なことを一緒に行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前や駐車場にベンチを置き、自由に外気浴や散歩を楽しまれている。裏には畑があり、入居者と共に収穫を楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「あるがままに楽しくゆったり」生活して頂けるよう常に入居者の希望を把握し、思いにそった暮らしの実現に努めている。又、住み慣れた地域で安心した暮らしを送って頂けるよう、地域との交流も大切にしている。